

インド、ダリット女性からの呼びかけ

IMADR はインドのタミールナドゥ・ダリット女性運動やネパールの FEDO (フェミニストダリット女性組織) と連携して、ダリット女性のエンパワメントや権利の促進にとりくんできた。ダリットとして、女性として、労働者として、女性たちは差別・排除され不利益をうけ、身体的、性的暴力にさらされてきた。女性たちが声を挙げ始めることで、これまで議論されてこなかったマイノリティ女性としてのダリット女性の問題が国際的に議論されるようになった。IMADR 理事であるブルナド・F・ナティサンが最近インドの女性たちに呼びかけた声明を紹介する。この呼びかけをアジアのそして世界のマイノリティ女性に向けたメッセージとして読んでいただきたい。

今こそつながろう！ 共通のフォーラムが必要

ブルナド・F・ナティサン(タミールナドゥ・ダリット女性運動)



国連人権理事会のサイドイベントで報告するファティマさん (2011年3月)

変革のための女性連合はダリット女性、部族女性およびその他の女性たちによるタミールナドゥ州内の運動の経験から誕生した新たなイニシアチブである。社会から疎外されて弱い立場に置かれた女性や人権侵害の被害にあった女性たちをつなぐことを目的に結成された。昨年11月には女性同士の連帯の強化を呼びかけ、女性たちが暴力や権利侵害の加害者を明らかにし、生活に変化をもたらすことを目的に、「女性たちよ声をあげよ」を開催した。

しかし、これらの運動はその意義が狭められ、軽視されることでその理想から遅れをとっている。これは女性やダリット、先住民民族イルラ、子どもに対する非常に家父長的な批判によるものであり、決して容認できるものではない。変化へ向けてすべての人びとが動いている中、既存の家父長的な運動諸団体は本来の目的を見失い、狭い視野の中でそれぞれが孤立してしまっているが、新自由主義や世界貿易機関、自由貿易協定、カースト差別そして遺伝子組み換え作物に対する反対運動はひとつながりであり、すべての課題は我々全員にとっての挑戦になっている。

デリーの少女への集団レイプ事件は、若者たちが変化を必要としていることを明確にした。少女はレイプされて13日後に亡くなったが、その間に行われた抗議行動はウォールストリートの占拠やアラブの春をほうふつとさせるものであった。変革のための女性連合はさまざまな女性団体を集めて議論を重ね、特別委員会へ勧告を提出した。8万人以上が賛同したにも関わらず受理されなかった勧告もあったが、委員会の勧告項目は非常に革新的であり、新たなレイプ処罰法が導入された。

最近の最高裁の判決により刑事事件およびレイプ事件に関する未成年の法定年齢を16歳から18歳へ引き上げられた。

変革のための女性連合は、婚前交渉関係にある同棲中のカップルは婚姻関係にあるとみなしたカルマン判事の判決についての集会を開催し、性的搾取されているダリット女性や部族女性がどのように採決を武器として使えるかの議論を進めている。また、結婚を批判的に議論し、結婚は女性の人生において第一目標ではないことも話された。

社会・世俗主義研究所の創設者であり、2013年5月14日に亡くなったアスガール・アリ・エンジニア博士を追悼する集会を開催した。彼は世俗主義の価値観や異宗教間の対話を広めると共に、地域社会主義に反対する人道活動家であった。研究所と協働で、若者を対象に世俗主義や人道的価値観に関するトレーニングとワークショップを開催することにした。

ダリットと他カーストとの結婚を発端に、ダルマプリの3つの村で268軒のダリットの家が燃やされ略奪された。酒に酔った100人以上の上位カーストによる武力攻撃で、村人たちが30年がかりで築いてきた財産は破壊された。コミュニティからの支持が低下しているある政党は、政治的利益のために通婚(異カースト間の結婚)に反対している。この政党はダリットの男性と結婚した女性の父親を中傷して彼を自殺に追い込んだ上に、自分たちのカーストの人びとからの票を集めるために若者たちを扇動したために、今回の残虐行為へつながった。政党指導者の圧力によって新妻はダリットの夫を残して家を出て離婚し

た。翌日、元夫のダリット男性が死亡したというニュースによってインド国内に衝撃が走った。彼の死が殺害によるものなのか自殺なのか、自殺ならばカーストが理由であったのかは明らかになっていない。死亡したダリット男性の追悼と異カースト間の結婚の支持、また個人への生活への政党の介入を非難するために、キャンドル集会が開催された。

5歳から8歳の23人の子どもたちが学校給食を食べて死亡したことも大きな衝撃であった。給食は殺虫剤の有機リン酸の臭いがしていたことがわかった。事故であったにせよ故意に毒が混入されていたにせよ、貧しく弱い子どもたちの命は危険に晒されやすく、インド洋大津波やヒマラヤでの大規模な土砂崩れによる多数の犠牲の後に、今回のような悲劇が起きてしまった。

2年におよぶ反対運動を無視してクダングラム原子力発電所は稼働した上に、それに反対した多くのNGOが外国献金登録法（FCRA）に基づく登録を取り消すと脅された。

ダルマプuriでの事件と同じ政党による扇動を受け、若者たちがマラカナム村を攻撃した。4月25日のこの攻撃によって11軒のダリットの家が燃やされ、財産は強奪された。インド政府はこの政党を処罰すべきであり、このような政党は禁止されるべきである。コミュニティを混乱に陥れる彼らにとって「政治」とは一体何を意味するのか、人びとのために政治が行われないのであれば誰のためのものなのか疑問である。また、村議会の7人のダリット議員は行政から被害家族へ支払われた見舞金を横取りしたが、これは州政府に通報され、処罰された。

夫の家出によって取り残される女性の数も増加している。ある女性は夫と10年間暮らし、2人の子どもを産んだが、現在夫は別の女性と暮らしている。ある女性教師の夫は妻と一緒に住みたがらない。声をあげない女性たちの状況を理解し、我々に何が求められているのか考えなければならない。

2月14日のバレンタイン・デーに行われた女性に対する暴力に反対する「一億人の立ち上がり」キャンペーンに変革のための女性連合も参加した。国連によると、一億人以上の女性が虐待、拷問、殺害され、権利を侵害されている。キャンペーンは210カ国で開催され、変革のための女性連合は他の女性団体と共にチェンナイで開催した。

新自由主義の時代において新しい形の暴力が増加し、女性にとっての安全は保障されていない。ある女性は年上の男性からの求愛を断ったために硫酸を浴びせられて亡くなった。硫酸を浴びせかける攻撃は国中で日常的に行われている。最高裁判所は硫酸の販売を制限し、被害者に賠償金を支払う判決をだした。この判決が問題解決になるのかを注意しつつ、どのように女性への暴力を規制できるのか考えなければならない。

喫緊の課題は、不公正に反対する運動、進歩的フォーラム、作家、反帝国主義者、反グローバルイゼーション運動、世俗主義者、フェミニスト、環境活動家そして新しい若者のフォーラムなど、すべての社会運動をひとつにまとめることである。

お互いの偏見を捨て、より広範な共通のフォーラムを新たに作ろうではないか。みんな、今こそつながろう！



アジア農村女性のフォーラムに集うインド女性たち